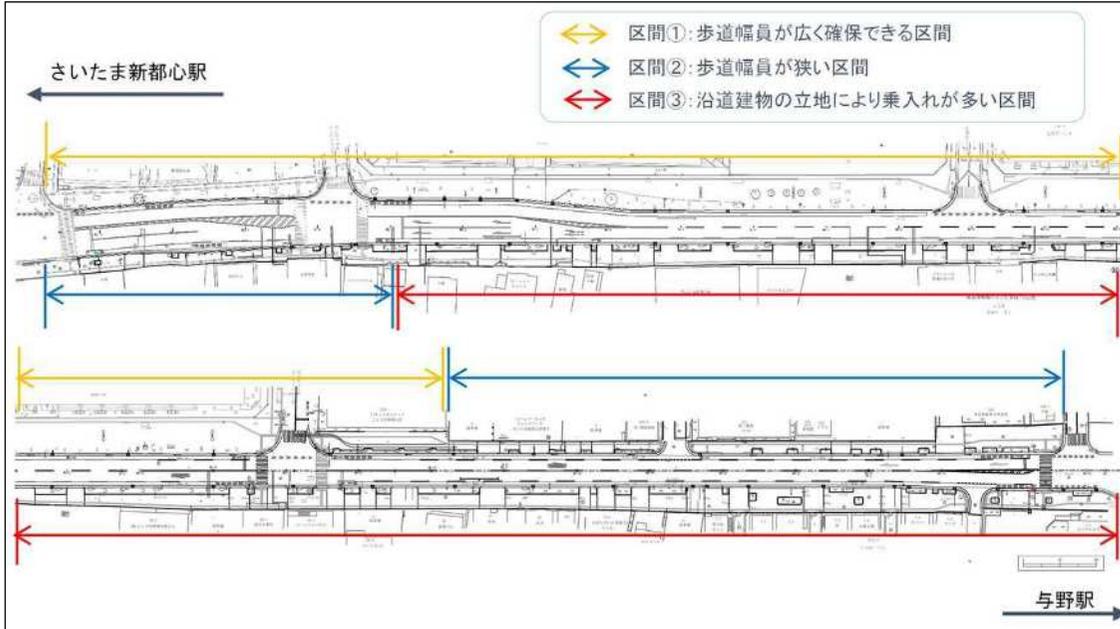


旧中山道の街路樹再整備方針について

○背景・目的

- 旧中山道のけやき並木は、1967年の埼玉国体の時に植樹されてから58年が経過し、**大径木化**による**根上り**や**歩道の狭あい**、**老木化**による倒木が課題となっている。また、けやきの木には大量の**ムクドリ**が集まり、**騒音被害**や**糞害**が生じている。
- 歩道はバリアフリーを目的とし、令和5年度より工事を進めているが、大径化したけやきの根が支障となり、**予定していた工事を中断**している。
- 課題解決のため、ワークショップを通じて、地元自治会や沿道権利者と課題を共有し、合意形成を図りながら検討して策定した街路樹の再整備方針を報告するもの。



ムクドリ対策の強剪定・ネット

歩道狭あい

出入りが多いが見通しが悪い

○地元との合意形成

- 令和6年10,11月にかけて、2回にわたり「旧中山道ケヤキ並木の街路樹再生整備に関するワークショップ」を開催し、対象路線周辺自治会より、意見を収集した。

■ワークショップ概要

- 第1回（令和6年10月16日）：対象路線の現状・課題、望ましい街路樹整備イメージについて
- 第2回（令和6年11月26日）：区間ごとの街路樹再生整備方針、植替え樹種の検討について



地元からの課題・要望
根上り・凸凹により、歩道が歩きづらい 歩行者のすれ違いが困難
見通しが悪く、車道に車を出しづらい
現状の松の木は整備後も残しつつ、緑の創出を行いたい
ムクドリによる騒音や糞害の影響をなくしたい
日常の清掃等の維持管理が負担である



工事スケジュール	R5,6年度	R7年度	R8年度
道路整備工事	排水構造物、車道舗装 等		
歩道整備工事		街路樹撤去 歩道舗装、地先境界ブロック等	植栽新植

旧中山道の街路樹再整備方針について

○街路樹再生整備案について

街路樹再生整備計画図について、以下に示す。

【鴻巣桶川さいたま線における課題】

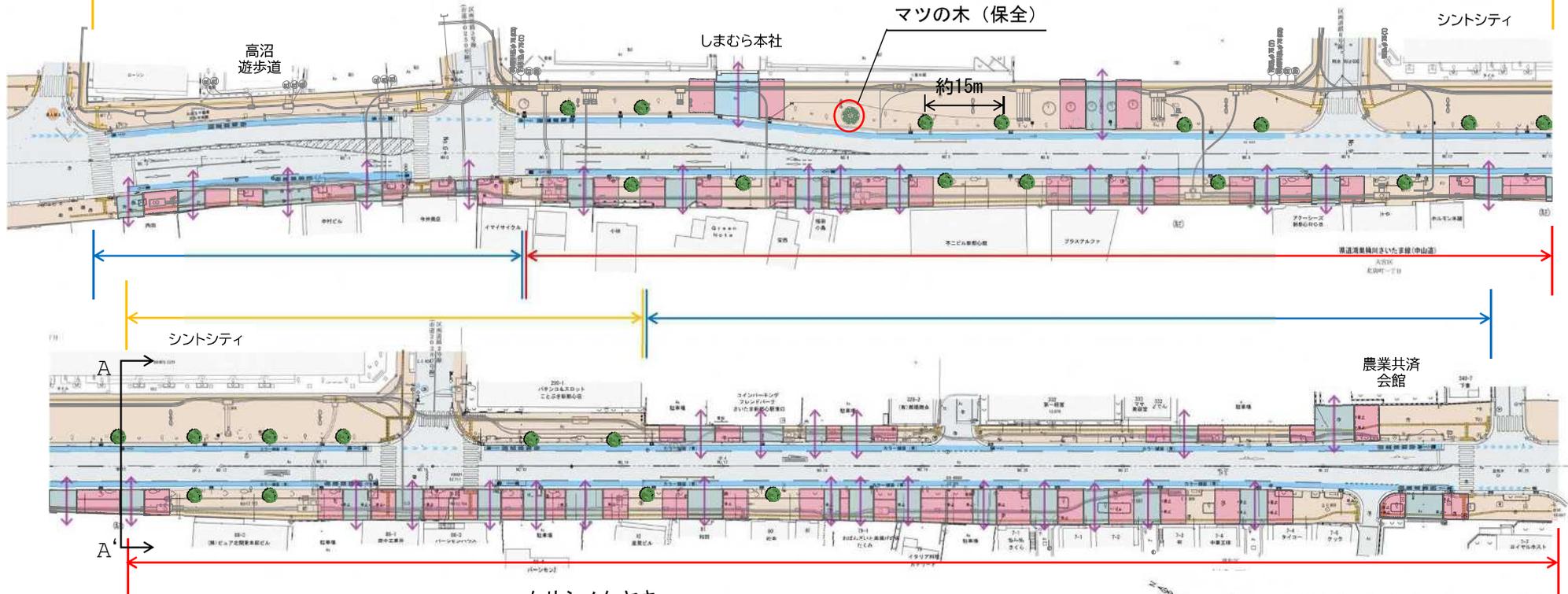
- ・安全な歩行空間整備を施すこと
- ・歩行者及び沿道住民の快適な環境整備を施すこと
- ・日常の風景を意識した樹種を選定すること

【設計方針について】

- 区間①：木陰や緑の創出のため、ムサシノケヤキを配植する。
 なお、配植については、通りの地域性及び樹形（籌状）に配慮し、植栽間隔は15m程度とする。
- 区間②：歩道幅員が狭い区間であるため、利用者の安全な通行を考慮し、植栽の配置は行わない。
- 区間③：有効幅員が3.5m以上の箇所においては、ムサシノケヤキを配植する。

さいたま新都心駅

街路樹本数：24本



【断面イメージ図】

A-A'



◆凡例

- 区間①：歩道幅員が広く確保できる区間（区間①）
- 区間②：歩道幅員が狭い区間（区間②）
- 区間③：沿道建物の立地により乗入れが多い区間（区間③）
- 乗入部
- 乗入部から5.0m範囲
- 現況の樹木
- 計画の樹木

与野駅

街路樹再整備後のイメージ画像



街路樹再整備後のイメージ画像

